眼病や胃腸病などに効果

伝説は本当だった

弘法大師の水

成分「特異な数値」

文理大講師の河野さん　調査で裏付け

真玉町の椿堂　効能が科学的に裏付けされた椿堂の奥の院にある弘法大師の霊水

湧（わ）き水（弘法大師の水）は一般の湧水（ゆうすい）と成分が違う不思議な水だった」。日本文理大学講師の河野忠さんの調査で、弘法大師の水にはカルシウムやマグネシウム、硫酸イオン、硝酸イオンといった成分が極端に多いという結果が出た。「霊水あらたか」と眼病や胃腸病など万病に効く水として信仰を集めてきた理由が科学的に裏付けられたという。

に全国各地の湧水や地下水を調べている。たまたま真玉町の椿堂で、万病に効くとされる弘法大師の霊水の成分調査をしたところ、硫酸イオンが極端に多い〝変な水〟だったことが分かった。硫酸イオンは、含有量が多いとされる火山周辺の湧水でも一㍑当たり二〇〇㎎程度だが、椿堂では九六・二㎎と常識では考えられない数値を示していた。これをきっかけに全国各地の「弘法大師の水」を調べ始めたという。

現在、全国には弘法大師と水にまつわる伝説は三千以上ある、といわれる。典型的な伝説は、のどが乾いた大師が水を求め、老女が遠方から水を運んで快く差し出す。大師は水の不自由な土地に同情、おれにつえをついて水を湧き出させる―といったもの。河野さんは四百五十カ所ほどの湧水を確認。うち百カ所について水の成分を調べた。

この結果、特徴的な水質を示す水が多く見つかった。火山や石灰岩地域でないのに、PH（ペーハー）が極端に高い例や低い例、無機主要成分でも異常な値を示し、特にカルシウムやマグネシウム、硫酸イオンや硝酸イオンなどの濃度が高いことが分かった。

また、分析により弘法大師の水は「信仰に基づく暗示（プラシーボ効果）で病気が良くなる面もあるが、成分調査の結果、実に病気治療や健康増進に効果のある水質を持っていることが十分推察された。そらく長い年月をかけて無機物質を溶かし、ゆっくりと湧出するのだろう。弘法大師の水は、水の老上、地域の貴重な水だけでなく、水質的にも特殊なものとして、長く信仰の対象になってきたと考えられる」と話している。

弘法大師　僧・空海。七七四～八三五年。平安時代の僧で、真言宗の開祖。文学、美術、教育の方面でも著名。全国各地を巡ったとされる逸話や利民の業績が各地に伝承として残っている。

伝えられ、眼病に効くとする水に硫酸イオン、胃腸病に効くとする水に硫酸イオンの濃度がそれぞれ高い傾向が見られた。目の病気に効くという富山県大山町の中ノ寺霊水は硝酸イオンが一㍑当たり三〇㎎と、通常の天然水の五㎎以下を大きく上回った。一般的に、カルシウムやマグネシウムが多い硬度の高い水は長寿の水として知られているが、弘法大師の水も硬度は一〇㎎程度だが、椿堂では通常の火山周辺の湧水でも一㍑当たり二七・六㎎と、通常の湧水に比べ二倍という数値を示した。

弘法大師の水は巨礫地山頂近くで、水に不自由するところに多い。湧き出てくる量は、地元の人たちは〝生命の水〟。椿堂には〝霊水〟。

県内でも九つの弘法大師にまつわる水が伝説を伝わっており、この方所を調査。椿堂の水は、カルシウムも一㍑当たり二七・六㎎と、通常の湧水に比べ二倍という数値を示した。

も毎秒〇・〇四㍑とごく微量だった。

河野さんは「信仰に基づく暗示（プラシーボ効果）で病気が良くなる面もあるが、成分調査の結果、実に病気治療や健康増進に効果のある水質を持っていることが十分推察された。そらく長い年月をかけて無機物質を溶かし、ゆっくりと湧出するのだろう。弘法大師の水は、水の老上、地域の貴重な水だけでなく、水質的にも特殊なものとして、長く信仰の対象になってきたと考えられる」と話している。